

二学年 国語科 後期中間試験 二〇二二年十二月二日(金)

一 次の傍線部のひらがなは漢字で書き、漢字は読み方をひらがなで書きなさい。
楷書ではつきりとていねいに書くこと。〔一点×20〕(知識)

- | | | |
|---------------|---------------|----------------|
| 1 大雨・こうずい警報。 | 2 ばくぜんとした話だ。 | 3 こんちゅうを採集する。 |
| 4 戦国時代のえいゆう。 | 5 せいきゆう書を送る。 | 6 ひはん的な意見を言う。 |
| 7 せいみつな模型を作る。 | 8 そぼくな人柄。 | 9 出題ひんなどが高い問題。 |
| 10 ひさんな状況を救う。 | 11 兄のしじにしたがう。 | 12 彼の意見をしじする。 |
| 11 左右たいしようの形。 | 14 学生たいしようの本。 | 15 たいしよう的な性格。 |
| 12 成果を披露する。 | 17 法律が施行される。 | 18 暫定予算を組む。 |
| 13 食生活が偏る。 | 20 醜い権力争い。 | |

二 次の文法に関する各問いに答えなさい。
三 一次の各文の傍線部の格助詞の意味を後から選び記号で答えなさい。〔一点×4〕(知識)

- | | | | |
|---------------------|-----|-----|--------|
| 1 約束を守るのは当然だ。 | ウ引用 | エ並立 | オ体言の代用 |
| 2 大井くんの言ったことを覚えておく。 | | | |
| 3 田川くんは鎌倉市の出身です。 | | | |
| 4 「頭が痛い」と坂爪くんは言った。 | | | |
| ア連体修飾語 | イ主語 | | |

問二 次の各文の傍線部の接続助詞の意味を後から選び記号で答えなさい。〔一点×4〕(知識)

- | | | |
|---------------------|--------|--------|
| 1 復習したのに、思い出せなかった。 | ウ確定の順接 | エ確定の逆接 |
| 2 急げば、間に合うだろう。 | | |
| 3 注意しても、彼は守らないだろう。 | | |
| 4 勉強したので、難しい問題も解けた。 | | |
| ア仮定の順接 | イ仮定の逆接 | |

問三 次の各文の傍線部の助詞が副助詞のものを次から選び記号で答えなさい。〔一点〕(知識)

- | | |
|--------------------|--|
| ア 天氣が悪いので、傘を持っていく。 | |
| イ 加茂さんは出席しますか。 | |
| ウ 午前十時より営業を開始します。 | |
| エ 杉浦くんには二度ほど会いました。 | |

問四 次の各文の傍線部の助詞が終助詞のものを次から選び記号で答えなさい。〔一点〕(知識)

- | | |
|---------------------|--|
| ア 眠いなどと言っている時間はない。 | |
| イ あれは何か、と秋葉先生に聞かれた。 | |
| ウ 秋月くんは駅に着いた。 | |
| エ 及川先生は授業の準備で忙しい。 | |

問五 次の各文の助動詞の意味を後から選び記号で答えなさい。〔一点×5〕(知識)

- | | | | |
|-----------------|-------|-----|----------|
| 1 来週にテストがあるらしい。 | ウ勧誘 | エ推定 | オ断定 |
| 2 あまり食べたくない。 | ク丁寧 | ケ可能 | コ打ち消しの推量 |
| 3 一緒に学校に行こう。 | | | |
| 4 答えを一人で考えさせる。 | | | |
| 5 会議はすぐには終わるまい。 | | | |
| ア希望 | イ打ち消し | | |
| カ使役 | キ受け身 | | |

問六 次の各文の傍線部の助動詞と意味・用法が同じものを後から選び記号で答えなさい。

- | | | |
|------------------|---------------------|------------|
| 1 昨日は雨だった。 | イ今電車に乗ったばかりです。 | 「一点×3」(知識) |
| ア とがった鉛筆を用意する。 | エ宿題が終わったところだ。 | |
| ウ 試験はとても難しかった。 | | |
| 2 僕も映画を見に行こう。 | イここから現地までは二キロはあろう。 | |
| ア 明日は雪が降るだろう。 | エ私も最後までがんばろう。 | |
| ウ 努力した者が合格するだろう。 | | |
| 3 早朝でも起きられる。 | イだんだんぐならいくつでも食べられる。 | |
| ア 病気の友人が案じられる。 | エおやつを弟に食べられる。 | |
| ウ 先輩が表彰を受けられる。 | | |

問七 次の各文の傍線部の助動詞と意味・用法が異なるものを後から選び記号で答えなさい。

- | | | |
|-----------------------|--------------------|------------|
| 1 午後から雨が降るそうだ。 | イタ方の五時に鐘が鳴るそうだ。 | 「一点×2」(知識) |
| ア 材料がずいぶん余りそうだ。 | エ父は一ヶ月に本を十冊も読むそうだ。 | |
| ウ 彼はこれから歯医者に行くそうだ。 | | |
| 2 雨と風は台風のように激しかった。 | イ夏みかんはボールのように丸い。 | |
| ア 過ぎゆく月日を水の流れのように感じる。 | エ会合は終わったように思われる。 | |
| ウ 秋なのに寒くて真冬のように思えた。 | | |

・漢字の完全マスターP91~F
・教科書P88「100年後の水」
・教科書P106「枕草子・徒然」
・国語便覧P66「枕草子」
・国語便覧P74「徒然草」
・教科書P116「平家物語」
・国語便覧P88「平家物語」
・教科書P232「助詞・助動詞」
・国語便覧P249~P251「助

No. 1

三 次の文章を読み、後の各問いに答えなさい。

①地球は「水の惑星」だ。私たちの周りには、たくさんの水がある。水は雲から雨となって大地に降り、地上で川の流れを作り、海に注ぎ、水蒸気になって再び大気に戻り、雲になる。水は姿を変えながら地球をめぐる。私たちが飲んだり、顔を洗ったりしている水も、こうした循環の中にある。地下にも大量の水が蓄えられているし、北極や南極などにある氷河や氷山も水だ。「水の惑星」地球には、一四億立方キロメートルという、想像できないほどの水がある。

この「水の惑星」に住みながらも、私たちは今、深刻な水不足に直面している。なぜ、水が不足してしまうのだろうか。

地球の水の九七・五パーセントは海にある。つまり、人間が飲んだり、使ったりする淡水は、地球の水全体の二・五パーセントしかないことになる。しかも、その淡水の七〇パーセントは凍っている。凍っていない淡水のほとんどは地下水であり、そのうち半分が地中深くにあって、利用することができない。人間が利用できる淡水は、浅い層にある地下水と川や湖の水であり、それらは地球全体の水の〇・〇一パーセントにすぎない。このように、地球に存在する水の中で、実際に使える水は限られている。そのうえ、地球にある水は姿を変えて循環しており、その総量は増えることがないどころか、汚染が進んで使える水の量は減り続けている。

一方で、人口増加と産業の発達によって、使う水の量は増え続けている。一九六〇年には三〇億人だった人口が、二〇〇九年には二倍以上に増え、二〇五〇年には九七億人になると予想されている。人間は、生命を維持するために必要な最低限の水分の他、手洗いや洗面などの衛生を保つための水を含めて、一日一人当たり五〇リットルの水が必要とされている。飲み水や体を洗う水などの、ふだんの生活の中で「見える水」は、人口の増加にしがたがって、当然増えるわけである。

それだけではない。使っていることが意識されにくい「見えない水」も増加し続けている。余り気づかないかもしれないが、毎日食べている御飯のもとである米、パンの原料となる小麦を育てるときにも、水は必要だ。このように、何かを作るときに必要な「見えない水」のことを「バーチャルウォーター（仮想水）」という。

A 食パン一斤を作るには、小麦粉三〇〇グラムを使う。その小麦粉三〇〇グラムを作るには、六三〇リットルの水が必要となる。肉の場合は、もつと大量の水が必要だ。鶏や豚や牛は水を飲むし、さらに、水を使って育てた穀物を餌にしているからだ。家畜が育つまでに使った水を計算すると、豚肉一〇〇グラム当たり五九〇リットル、牛肉一〇〇グラム当たり二〇六〇リットルになる。

食べ物を作るのには、たくさんのお水が必要だ。実際、地球にある利用可能な淡水のうち、七〇パーセントが、農業に使われている。

(中略)

こうした水問題に対して、私たちができることは、水の循環になるべく負担をかけない水の使い方をすることだ。

まず、「②節水」から考えてみよう。節水は各家庭でできる。一人一人がすぐに実行でき、なおかつ、まとまると大きな力になる。例えば、歯磨きの場合、口をすすいでいるときに水を流しっぱなしにすると、三〇秒間で六リットルの水が流れていく。実際には、コップ一杯あれば十分に口はすすげる。つまり、五・七リットルの水は捨ててしまったことになる。

「バーチャルウォーター」も節水の対象となる。日本は食料を世界中から買い集めている一方で、世界一の残飯大国でもある。捨てられる食べ物は、供給量の三分の一にのぼる。日本の食品廃棄物の発生量は、年間二八四二万トン。仮に、捨てられたものが御飯だとすると、それを生産するのに使われる水の量は、年間一〇五一億五四〇〇万トンになる。一人当たり一日二・三トンの水を捨てているのと同じことだ。食べきれず分だけ作り、食べきれば無駄にはならない。これが最大の節水なのである。

次に、雨を貴重な水資源と捉え、大切に賢く使う「雨水利用」の方法を考えることも大切だ。一つの住宅や一つのビルでためられる雨水は少量であっても、地域全体としては大きな効果があるからだ。仮に東京都内の全ての一戸建て住宅が屋根に降った雨をためたとすると、年間で一億三〇〇万トンの水が確保できる計算になる。これは利根川上流の巨大ダムが東京都に供給している水量を上回る。

雨水を蓄えるということでは忘れてはならないのは、森林のはたらきだ。「緑のダム」と呼ばれる森林は、雨を受け止め、土壌に染み込ませ、ろ過し、地下水として蓄える。また、水を張った田んぼにも地下水涵養の機能があり、平均して、一日一ヘクタール当たり二万トンの水を土壌に浸透させている。森林も水田も、貴重な地下水を育む場所なのだ。

また、日本では、使った水を繰り返し使う「再利用」の技術が進んできている。工業用水の再利用は、一九六〇年代には三五パーセント程度だったが、現在では七八パーセントにまで高まっている。この技術を発展させ、③それを世界に発信することによって、水問題に苦しむ国や地域に貢献することができる。

水問題は、水自体に問題があるわけではない。行きすぎた人間の行動が鏡に映ったものが、水問題である。これは、地域の問題であると同時に、世界の問題である。現代の課題であると同時に、将来を見据えて長期的に捉えるべき課題である。自然の摂理の中で、身近な水を大切に使う生活、④一〇年後、一〇〇年後の水を育む生活こそが、水問題の解決につながっていく。(「一〇〇年後の水を守る」より)

四 次の古文を読み、後の各問いに答えなさい。

① 春はあけぼの。やうやう白くなりゆく山ぎは、少しあかりて、紫だちたる雲の細くたなびきたる。
夏は夜。月の頃はさらなり。闇もなほ、螢の多く飛びちがひたる。また、ただ一つ二つなど、ほのかにうち光りて行くもをかし。雨など降るもをかし。
秋は夕暮れ。夕日のさして山の端②いと近うなりたるに、からすの寝所へ行くとして、三つ四つ、二つ三つなど飛び急ぐさへあはれなり。まいてかりなどの連ねたるが、いと小さく見ゆるは、いとをかし。日入りはてて、風の音、虫の音など、はた言ふべきにあらず。
冬はつとめて。雪の降りたるは言ふべきにもあらず、霜のいと白きも、またさらでも、いと寒きに、火など急ぎおこして、炭持て渡るも、いとつきづきし。昼になりて、ぬるくゆるびもていけば、火をけの火も、白き灰がちになりて③わろし。（「枕草子」第一段より）

問一 傍線部①「春はあけぼの」について次の問いに答えなさい。

一 筆者は「あけぼの」はどうだと言っているか。「夏」の段落から三字で抜き出して答えなさい。

〔一点〕（読む）

二 「春はあけぼの」の意味にあたるものを次から選び記号で答えなさい。〔2点〕（読む）

ア 春になると夜が明けるのが早くなってくる。

イ 春になると明け方がだんだんと暖かくなってくる。

ウ 春は明け方の時間帯が過ごしやすい。

エ 春は明け方の時間帯の光景が風情があつてよい。

問二 「夏」の段落で筆者が述べていることを次から選び記号で答えなさい。〔2点〕（読む）

ア 月夜もよいが、螢の飛ぶ闇夜や雨の夜もよい。

イ 月夜より螢の飛ぶ闇夜の方がよい。

ウ 月夜や螢の飛ぶ夜より、雨の夜がよい。

エ 月夜で、さらに螢が飛べばなおよい。

問三 傍線部②「いと近うなりたるに」とあるが、何が何に近くなったのか。文章中からそれぞれ抜き出して答えなさい。〔一点×2〕（読む）

問四 傍線部③「わろし」とあるが、筆者はなぜ「わろし」と述べたのか。次から選び記号で答えなさい。

〔2点〕（読む）

ア 炭が赤々と燃えていないと少しも暖かくないから。

イ 寒い中で炭が赤く燃えてこそ冬らしさを感じるから。

ウ 灰ばかりになった白こそ冬らしさを引き立てるから。

エ 灰ばかりになった白は寒さを強く感じさせるから。

問五 次の文章は、「枕草子」の作者について説明したものである。空欄に当てはまる言葉を後から選び記号で答えなさい。〔一点×4〕（知識）

「枕草子」の作者は（ 一 ）である。（ 2 ）時代の成立で、「徒然草」や「方丈記」と並んで（ 3 ）のひとつとされている。

（ 一 ）は一条天皇の（ 4 ）に仕え、華やかな生活を送ったが、（ 4 ）の死後は宮中を退き、寂しい生活をしていたと言われている。

ア 兼好法師	イ 紫式部	ウ 清少納言	エ 中宮貞子	オ 北条時行
カ 奈良	キ 平安	ク 鎌倉	ケ 中宮定子	コ 諏訪頼重
サ 三大随筆	シ 四大随筆	ス 五大随筆	セ 中宮彰子	ソ 足利尊氏

五 次の古文を読み、後の各問いに答えなさい。

仁和寺にある法師、年寄るまで、石清水を拝まざりければ、①心うく覚えて、あるとき思ひ立ちて、ただ一人、かちより詣でけり。

極楽寺・高良などを拝みて、②かばかりと心得て帰りにけり。

さて、かたへの人にあひて、「③年ごろ思ひつること、④果たしはべりぬ。聞きしにもすぎて、尊くこそおはしけれ。そも、参りたる人ごとに山へ登りしは、なにごとかありけん、⑤ゆかしかりしかど、神へ参るこそ本意なれと思ひて、⑥山までは見ず。」とぞ言ひける。

⑦少しのことにも、先達はあらまほしきことなり。（「徒然草」第五十二段より）

問一 傍線部①「心うく覚えて」⑤「ゆかしかりしかど」をそれぞれ現代語訳しなさい。

〔2点×2〕（読む）

問二 傍線部②「かばかりと心得て」とあるが、どのように思ったのか。次から選び記号で答えなさい。

ア 徒歩でお参りできるのは極楽寺・高良だけだと思った 〔2点〕（読む）

イ 石清水八幡宮は仁和寺から徒歩でお参りするには遠すぎると思った

ウ 極楽寺・高良が石清水八幡宮だと思った

エ 極楽寺・高良は石清水八幡宮ではないと思った

問三 傍線部③「年ごろ思ひつること」とはどのようなことか。現代語で説明しなさい。〔2点〕（読む）

問四 傍線部④「果たしはべりぬ」と言った法師の気持ちを次から選び記号で答えなさい。〔2点〕（読む）

ア 目的を果たすことができて満足である。

イ 目的を果たすことができなくて残念である。

ウ 目的を果たすことができなかったが満足である。

エ 目的を果たすことができたが物足りなさがある。

問五 傍線部⑥「山までは見ず」とあるが、その理由に当たる部分を文章中から十四字で抜き出して答えなさい。〔2点〕（読む）

問六 傍線部⑦「少しのことにも、先達はあらまほしきことなり」と感じたのは誰か。次から選び記号で答えなさい。〔2点〕（読む）

ア 仁和寺にある法師 イ かたへの人 ウ 参りたる人 エ 筆者

六 次の古文を読み、後の各問いに答えなさい。

祇園精舎の鐘の聲、
諸行無常の響きあり。

娑羅双樹の花の色、

盛者必衰のことわりをあらはす。

おごれる人も久しからず、

ただ①春の夜の夢のごとし。

たけき者もつひには滅びぬ、

ひとへに②風の前の塵に同じ。

矢ごろ少し遠かりければ、海へ一段ばかりうち入れたれども、なほ扇のあはひ七段ばかりはあるらむところ見えたりけれ。頃は二月十八日の酉の刻ばかりのことなるに、をりふし北風激しくて、磯打つ波も高かりけり。舟は、揺り上げ揺りすゑ漂へば、扇も串に定まらずひらめいたり。③沖には平家、舟を一面に並べて見物す。陸には源氏、くつばみを並べてこれを見る。いづれもいづれも晴れならずといふことぞなき。与一目をふさいで、

「南無八幡大菩薩、わが国の神明、日光の権現、宇都宮、那須の湯泉大明神、願はくは、あの扇のまんな中射させてたばせたまへ。これを射そんずるものならば、弓切り折り自害して、人に二度面を向かふべからず。いま一度本国へ迎へんとおぼしめさば、この矢外させたまふな。」

と心の内に祈念して、目を見開いたれば、風も少し吹き弱り、扇も射よげにぞなつたりける。

与一、かぶらを取つてつがひ、よつぴいてひやうど放つ。小兵といふぢやう、十二束三伏、弓は強し、浦響くほど長鳴りして、あやまたず扇の要ぎは一寸ばかりおいて、ひいふつとぞ射切つたる。かぶらは海へ入りければ、扇は空へぞ上がりける。しばしは虚空にひらめきけるが、春風に一もみ二もみまれて、海へさつとぞ散つたりける。夕日のかかやいたるに、みな紅の扇の日出だしたるが、白波の上に漂ひ、浮きぬ沈みぬ揺られければ、沖には平家、舟端をたたいて感じたり、陸には源氏、えびらをたたいてどよめきけり。

あまりのおもしろさに、感に堪へざるにやとおぼしくて、舟の内より、年五十ばかりなる男の、黒革をどしの鎧着て、白柄の長刀持つたるが、扇立てたりけるところに立つて舞ひしめたり。伊勢三郎義盛、与一が後ろへ歩ませ寄つて、

「御定ぞ、つかまつれ。」

と言ひければ、今度は中差取つてうちくはせ、よつぴいて、しや頸の骨をひやうふつと射て、舟底へ逆さまに射倒す。平家の方には音もせず、源氏の方にはまたえびらをたたいてどよめきけり。

「あ、射たり。」

と言ふ人もあり、また、

④「情けなし。」

と言ふ者もあり。（「平家物語」より）

問一 傍線部①「春の夜の夢のごとし」②「風の前の塵に同じ」とあるが、これらの表現は何をたとえたものか。次から選び記号で答えなさい。「2点」（読む）

ア 新しいものが次々と現れる人の世の楽しさ

イ すべてが移り変わっていく人の世のはかなさ

ウ 権力争いが何度も起こる人の世の恐ろしさ

エ 権力者の圧政に負けない人の世の美しさ

問二 「平家物語」の世界観である「世の中のあるものは移り変わり、永久不変のものはない」という考え方を何というか。漢字三字で答えなさい。「1点」（知識）

問三 「平家物語」のような、歴史上に起きた合戦を素材として書かれた作品を何というか。漢字四字で答えなさい。「1点」（知識）

問四 傍線部③「沖には平家、舟を一面に並べて見物す」と対句になっている一文のはじめの五字を文章中から抜き出して答えなさい。「2点」（読む）

問五 文章中から、擬音語を二つ抜き出して答えなさい。「1点×2」（読む）

問六 与一の武士らしい覚悟を表している一文のはじめの五字を文章中から抜き出して答えなさい。

「2点」（読む）

問七 傍線部④「情けなし」とあるが、これはどのような気持ちから言った言葉だと考えられるか。

「感動」「非情」という言葉を必ず使って三十五字以上四十字以内で書きなさい。「3点」（書く）